



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 歯学教育者のためのワークショップ 開催される

歯学教育推進室 片岡 竜太



第18回昭和大学歯学教育者のためのワークショップは、8月7日(水)、8日(木)に神奈川県葉山町IPC生産性国際交流センターで開催されました。医学部、薬学部のアドバンスドと同時開催で、参加者は4大学交流校、学事部などを含めて60名(歯学部22名)、タスクは18名(歯学部5名)でした。「昭和大学のコンピテンシー」(4学部)をはじめとしてコンピテンシーが全体の大きなテーマとなっており、昭和大学ならびに各学部のコンピテンシーの明文化に取り組みました。富士吉田校舎における全寮生活を経験し、学部連携教育を受けた昭和大学の学生が卒業時に身につけることは何かを参加者が考えました。さらに専門性を加えて各学部の学生が卒業時に身につけるべきコンピテンシーは何かを確認しました。歯学部は制定4年後の「コンピテンシーの見直し」に取り組みました。今後の方向性が決まり、これによりしっかり臨床実習にもコンピテンシーの考え方が定着するものと期待されます。

コンピテンシーを受験生、学生にわかりやすく説明するために、卒業時にできることをロールモデルとして映像化する薬学部の試みは、歯学部でも取り組むべきであると思いました。

招待講演として東京慈恵会医科大学 福島統教授に「ポートフォリオによる教育・学習評価」というテーマで、コンピテンシーを評価する際にポートフォリオが重要な役割を果たすことと学生への対面のフィードバックが重要であることを話していただきました。

歯科医師会から大谷先生と村上先生、学事部から倉地係長が参加し、「地域と連携した歯科医療実習の推進」として、初年次の歯科医院見学実習(現在実施)、3年次の歯科医院体験実習、5年次の地域歯科医療実習(仮称)という流れと、3年次の実習の具体的な内容を検討していただきました。

学部を超えた活発な討議の後、学事部も含め90名以上が参加する合同の懇親会が開催されました。

懇親会場で参加者が4学部入り乱れて和気藹々と話している姿は昭和大学のますますの発展を予感させるものでした。

今回のワークショップで、昭和大学ならびに医学、歯学、薬学部のコンピテンシーを一覧し、医療人を養成する昭和大学の共通部分と専門部分が何かを把握することができました。チーム医療を担う歯学部学生も4学部のコンピテンシーを読んで、医療人としての立ち位置を把握した上で学んだ方が良いと感じました。コンピテンシーの評価は容易ではありませんが、臨床実習の充実と同時に進めて行くべきであると思いました。

最後に運営を支えていただいた学事部をはじめ皆様に感謝致します。

## 第18回歯学教育者のためのワークショップに参加しました

岩手医科大学 生化学講座細胞情報科学分野  
石崎 明

この度は、貴学のワークショップに参加させていただき、まことにありがとうございました。

我々の班のテーマは、「歯学部コンピテンシーの見直し」でした。今回は、Profile and Competences for the Graduating European Dentist - Update 2009を参考にしながら、



現代の歯学教育の方向性に合致した歯学部コンピテンシーの策定の作業に携わることができ、たいへん勉強になりました。現在、岩手医科大学歯学部では、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの3つのポリシーの見直しを考えているところでしたので、たいへん貴重な勉強の機会となりました。また、本ワークショップ開始時には、「コンピテンシー」の定義について理解不足のところがありましたが、作業を進めるにつれて、このコンピテンシーがディプロマポリシーと強く関連性を有しており、同時にカリキュラムポリシーにも大きく影響を与え、アドミッションポリシーの方向性に関わるものであることが徐々に理解できてきました。

今後、今回のワークショップの経験を活かし、我々の大学の特徴に合った方向性を見いだして行きたいと思えます。今回のワークショップや懇親会でのディスカッションを通し、貴学の「至誠一貫」の素晴らしい精神に感動いたしました。今後ともご教授を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 昭和大学歯学教育者のためのワークショップに参加して

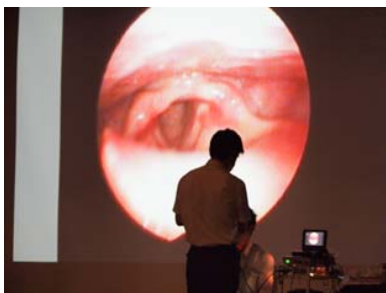
歯科麻酔学部門 飯島 毅彦

8月7日(水)8日(木)の2日にわたり昭和大学歯学教育者のためのワークショップが葉山IPC生産性国際交流センターで開催されました。今回は4学部合同ワークショップであり、参加者60名にタスクフォースを加えた大規模なものでした。歯学部のテーマは「歯学部コンピテンシーの見直し」と「地域と連携した歯科医療実習の推進」でした。コンピテンシーという概念は学部教育を通して獲得すべき人間像であり、明文化することにより教育内容を検証し、組み立てていくためのものです。歯学部がいち早くこの概念を取り入れましたが、今回は医学部、薬学部さらに昭和大学としてのコンピテンシーについて話し合われました。歯学部のコンピテンシーは欧州の大学で使用されているものをもとに作られましたが、今回はその内容を見直しました。2日間にわたりましたが議論は尽きませんでした。長谷川教授の事前の準備のおかげで一通りの見直しが完了しました。地域連携の実習は目黒および蒲田の歯科医師会の同窓生にご参加いただき、実質的な議論が行われました。今回の成果は、実際のコンピテンシー改訂に生かされ、地域連携実習についても来年度からの歯学部教育に反映されます。

## 東日本大震災支援チャリティー摂食・嚥下講習会を開催しました

口腔リハビリテーション医学部門 高橋 浩二

8月18日(日)本学上條講堂で昭和大学摂食・嚥下研究会後援 第3回東日本大震災支援チャリティー摂食・嚥下講習会「嚥下障害の臨床のコツをつか



め！！～頸部聴診法から口腔機能改善装置まで～」を開催しました。講演テキストは歯科病院の協力で印刷され、当日は北海道から沖縄まで122名の方が参加され、私、横山講師、武井言語聴覚士が講演を行いました。嚥下内視鏡のライブ実習を含む講演は充実していたようで講演後のアンケート調査ではほぼ全員からお褒めの言葉を頂きました。参加費は集計され、東日本大震災支援のために81万円〔東日本大震災摂食・嚥下支援チーム(代表日本嚥下医学会理事長藤島一郎先生)に71万円、岩手県言語聴覚士会後援摂食・嚥下講習会(主催佐藤誠一先生)の補助10万円〕が寄付されました。

## D6チューターによる個別指導を行います

D6チューター会議 美島 健二

国家試験まで残すところ半年たらずとなり、D6学生も益々勉強のペースを上げていることと思われます。そのような中で、国家試験に加え卒業試験の2つのプレッシャーを受けている学生諸君の生活リズムは乱れがちです。このような状況から、D6学生は本人が希望すれば、指導担任に加えてD6チューターによる個別指導を受けることが可能となっています。現在、32名の学生が17人のD6チューターの個別指導を受けています。具体的な指導内容は、以下の通りです。

- ・出欠状況を把握したうえでの生活指導
- ・成績推移を把握したうえでの学習方法指導
- ・行き詰った時のアドバイス

より細かな指導により一人でも多くの学生が国家試験の合格を勝ち得ることができるよう、D6チューターを中心に学部全体で取り組んでいます。

## 昭和大教育者のためのワークショップに参加しました

口腔微生物学教室 桑田 啓貴

第5回昭和大学教育者のためのワークショップ(ビッグナー)に参加いたしました。貸切りバスで旗の台キャンパスを出発し、葉山IPC生産性国際交流センターに到着、開会挨拶と自己紹介を済ませると、短い休憩を挟んでオリエンテーションが始まりました。今回が初めての「教育者のためのワークショップ」参加で、いろいろ戸惑いながらのスタートとなりました。全三日間のタイムスケジュールは緊密に組まれており、私の所属するグループEでは「体験型地域医療実習」をテーマとして自由闊達な討議が進められました。方略や評価など一度聞いただけでは理解が難しい専門用語も多く、毎日が緊張の連続でしたが、二日目午後の小口理事長、日本赤十字秋田看護大学の畑尾先生、聖マリアンナ医科大学の田中先生の講演では、永年の経験から培われた貴重な教育のTipsを知ることが出来ました。懇親会では全学部からの参加者が一同に介し、夜遅くまで宴会が繰り広げられ、ようやくひと呼吸置くことができましたように感じました。なお歯学部からは、渡邊さんが学長賞、朽名さんが理事長賞を受賞されました。最終日には、小出新学長より受講者全員に修了書が授与され無事終了となりました。





## 昭和大学教育者のためのワークショップに参加しました

歯周病学講座 府川有紀子

第5回昭和大学教育者のためのワークショップが、去る7月30日(火)～8月1日(木)の3日間、神奈川県葉山町IPC生産性国際交流センターで開催されました。医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部、富士吉田教育部、看護専門学校からの参加者は総勢35名(歯学部7名)、タスクは19名(歯学部4名)でした。

初日は午前中に参加者全員で自己紹介を行い、午後からは、学部混合で7名ずつ5グループに分かれ課題に取り組みました。「望ましい学習」では、参加者が今までに経験した学習の中で各々が印象に残る場面を絵に描いて発表したり、「昭和大学における教育の問題点」をグループごとにKJ法という小集団の思考をまとめる方法を用いて問題点を抽出したりしました。そして初日から2日目にかけて、グループごとに決められたテーマでカリキュラムの3要素である目標、方略、評価の作成を行いました。私が属したグループのテーマは「初年次のチーム医療入門」で、各課題を行うたびに全体発表と質疑応答を繰り返しました。

その他にも、招聘タスクの畑尾正彦先生(日本赤十字秋田看護大学)や田中克之先生(聖マリアンナ医科大学)の講演があり盛り沢山の3日間でした。



## Down the Memory Lane

歯科放射線医学部門 Rishabh Kapila

I, Rishabh Kapila, from India would like to express my heartfelt indebtedness to the management at Showa University for giving me this golden opportunity to work as a research fellow in the Department of Oral Radiology from April to September 2013.

During my fellowship period at Showa University, I was able to complete research studies on the determination of radiopacity of composite resins according to ISO 4049: International Standard and evaluation of juxta-apical area associated with mandibular third molars on Panoramic radiography and Cone Beam Computed Tomography.

My studies wouldn't have been possible without the guidance and support of the faculty in the



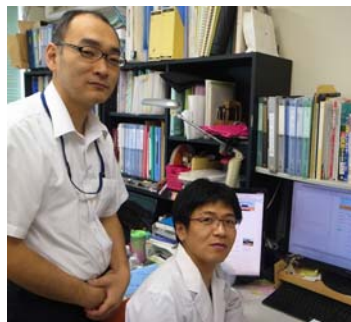
Department of Oral Radiology. The expertise and knowledge of Professor Sano is known to all. In spite of his hectic schedule, he was always ready to spare time and discuss my research with a smile on his face. It was his confidence in me which allowed me to work in a competent and productive manner. Dr Matsuda helped me to a great extent in all my studies. She was always there in times of need and encouraged me throughout my research. Professor Okano's timely advice guided me during my stay at Showa University. Dr Araki and Dr Harada also helped me in my research projects. During my sojourn, I also presented my research in the 33<sup>rd</sup> Annual Showa Shigakukai Conference on 6<sup>th</sup> July, 2013.

Lastly; I want to thank my beloved teachers, Dr. K.S. Nagesh and Dr. M.R. Dinesh of R.V. Dental College, Bangalore, India for extending me this opportunity to visit Showa University. The time spent in Showa University has been memorable and will be cherished throughout my life.

## 昭和大学歯学部英文ホームページができました

口腔微生物学教室 桑田 啓貴

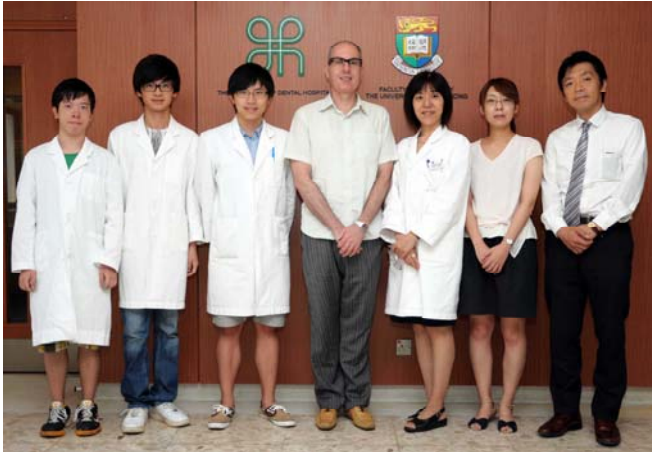
昭和大学歯学部の英文ホームページを作成しました。本学歯学部ホームページ(<http://www.showa-u.ac.jp/education/dentistry.html>)にリンクを掲載する予定です。世界の標準語である英語でホームページを作成することで、今後の昭和大学歯学部の国際的 Prestige 向上と幅広い留学生の獲得を目指します。掲載内容は、単なる日本語ホームページの英訳ではなく、優秀な留学生を呼び込むためのアドバルーンとしての役割を主とし、大学紹介、宮崎学部長による緒言、講座紹介、卒後プログラムへの案内などから構成されます。ホームページは谷口助教(口腔微生物学)により本格プロ仕様の Dreamweaver を用いて作成されました。ページ上部には、日本の象徴かつ昭和大学とも関わりの深い富士山があらわられています。歯学部英文広報誌と併せて今後の海外交流などにもお役立てください。まだ内容的には物足りない部分が残りますが、随時コンテンツを追加し、充実させていただきます。ご意見ご感想をお待ちしております。



## 後藤多津子先生と共同研究を行いました

歯科放射線医学部門 藤倉 満美子

平成25年8月3日～5日の日程で本学部の姉妹校であり協力校である香港大学歯学部口腔診断科を本分野佐野司教授と訪問し、後藤多津子准教授と遠隔画像診断システムの構築に関する共同研究打合せを行いました。後藤多津子先生は九州大学歯学部をご卒業され、九州大学病院口腔画像診断科講師を務められ、現在香港大学口腔診断科の准教授としてご活躍されています。



香港大学歯学部の診療・教育は Prince Philip Dental Hospital で行われています。口腔診断科には、口内法、パノラマ、セファロ、断層撮影装置に加え、医科用CT装置、歯科用コーンビームCT装置が設置されています。医科用CT装置は歯科の診療施設に設定されている例が海外では少ないですが、腫瘍症例等にも画像診断が行われていました。一方、造影CT、MRI、PET-CT等は医学部附属病院である Queen Mary Hospital 等で画像検査が行われますが、Prince Philip Dental Hospital からは車で約10分の立地であり画像情報のやりとりに支障がないとは限りません。そこで、昭和大学歯科放射線科、香港大学歯学部病院および医学部病院の3病院間での画像診断システム構築について打ち合わせを行いました。画像情報に個人情報を含まない、securityを完備する、また、PACSを介さないなどの具体的な方策について議論がなされました。



## 医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナーに参加しました

地域連携歯科学部門 田代(マイヤース) 三恵

8月3、4日に名古屋で開催された医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー(新初級編)に参加して参りました。

例年は医療コミュニケーション教育に関わることの多い総合歯科系の先生の参加が多いということでしたが、今回は各専門領域から多くの先生が参加されていたため、意見交換も活発に行われました。第1日目は医療コミュニケーション教育のあり方、医療コミュニケーションにおけるファシリテーターの役割についてのレクチャーと教育技法としてSPシミュレーション教育の授業計画からシナリオ作成、SPへの演技指導を行いました。第2日目はフィードバックとファシリテーションの技法を学んだ後に、実際にSPシミュレーション模擬授業を4クール行いました。模擬授業において、私は学生とファシリテーター役を行いました。学生役の時は緊張のあまり早口になり、また思いもよらない事を言ってしまい、改めて学生の大変さを実感しました。今後はこのセミナーで学んだ事を生かして、試験のためのコンテンツ重視の医療コミュニケーションではなく、もっと「対人」を意識したコミュニケーションを学生に指導していくよう心がけたいと思います。



## 行事予定

広報委員長 井上富雄

- 9月 1日(日): 富士吉田オープンキャンパス
- 9月 7日(土): 大学院秋季入試  
歯科病院臨床研修歯科医採用試験
- 9月14日(土): 歯学部進学説明会
- 9月26日(木): 大学院修了式
- 9月28日(土): 富士吉田父兄会
- 10月 1日(火): 大学院秋季入学式
- 10月11日(金)～13日(日): 旗が岡祭・いぶき祭
- 10月15日(火): 解剖慰霊祭
- 10月19日(土): 父兄会秋季部会
- 10月22日(火): 歯科医師臨床研修マッチング発表
- 10月23日(水): ツベルクリン反応検査

## 編集後記 歯科放射線医学部門 松田 幸子

お忙しい中、原稿を執筆して頂く皆様にいつも感謝しております。残暑厳しい折、ご自愛くださいませ。